



真剣な表情でアンドロイド端末用のアプリケーション開発について学ぶ生徒

# アプリ開発 基礎学ぶ

## 八戸商高生 複雑な構成に苦戦

### 八戸

校生育成事業」の指定を受け初めて実施。

青森県立八戸商業高（教頭定彦校長）は7、8の両日、同校でスマートフォンなどに用いられるアンドロイド端末用のアプリケーション開発講座を開き、情報処理科の3年40人が実務的な基礎を身に付けた。

同校は本年度、青森県教委が若者の探求心と自発性を高めるのを目的とした「探求型学習」によるたくましい高

校生育成事業」の指定を受け初めて実施。地元企業と学校が連携し、即戦力となる人材を育成するために、八戸市のIT企業「アイティワーク」の岡本信也取締役が講師に招かれた。

8日は、異なる画像の端末に合わせて画像を取り込む方法などを学習。生徒は、複雑な構成に苦戦しながらも講師らの指導を受けて真剣に取り組んでいた。

蟹沢直樹君（17）は「貴重な機会だった。難しいけど分かると楽しい」、米田明未さん（17）は「プログラマーになりたいからとてもためになった。将来はアンドロイドの開発をしたい」と話していた。

同社は今後、課題研究の授業でアプリケーションを制作している生徒に対し、アドバイスをしながら完成と市場への公開までを支援する。（玉川那津美）